

老人福祉センターのあり方及び今後の方向性について

1 はじめに

本市の老人福祉センター（いきいきシニアセンター）は、開設以来、多くの高齢者に親しまれ、利用されてきていますが、開設当時と現在では、本市を取り巻く社会情勢が大きく変化しており、高齢者の日常生活や価値観にも変化が生じています。そのため、高齢者数が増加し続けているにもかかわらず、利用者数は減少傾向にあり、特にやすらぎ荘については、施設の老朽化の問題も生じており、将来的な継続使用が非常に厳しい状況になっています。

このような現状を踏まえ、本市の高齢者施策において、老人福祉センターについて、高齢者に孤独を感じさせない、孤立させないための「居場所」や高齢者の外出を促す施設としてだけでなく、これから求められる機能と果たすべき役割を検討していることから、現時点における今後のあり方や方向性について報告するものです。

2 老人福祉センターの現状と課題

(1) 老人福祉センターの現状

本市では、高齢者の生きがいと健康づくりのための拠点施設として、老人福祉法に基づく、老人福祉センターとして、やすらぎ荘・湘南なぎさ荘・こぶし荘の3館を設置し、高齢者のニーズやライフスタイルに即した様々な事業を展開するほか、利用者のボランティア活動への参加支援などを行っています。

また、市社会福祉協議会が指定管理者として運営管理を行っています。

ア 各館の概要（【資料2】1ページ 2（1）ア（ア）参照）

イ 運用コスト

（令和5年度決算額）

事業費名	金額（円）
いきいきシニアセンター業務委託費 （指定管理業務委託、賃借料、施設賠償責任保険）	250,485,188
いきいきシニアセンター施設整備費 （施設修繕費、土地・建物賃借料、大規模維持補修工事）	13,815,110
湘南すまいるバス運行事業費 （老人福祉センター巡回バスの委託料等）	41,851,020
合計（a）	306,151,318
延べ利用者数（b）	144,121（人）
利用1回あたりコスト（a／b）	2,124（円／回）

(2) 老人福祉センターの課題

老人福祉センターの運用にあたり、次のア～オの5項目が課題としてあげられます。

ア 施設の老朽化

各老人福祉センターは、建築から年数を経たことによる建物の老朽化や、建物構造による修繕や工事の制限など、施設ごとに特有の課題を抱えています。

(ア) やすらぎ荘

老朽化が著しく、施設にはエレベーターが無いなど、バリアフリーに対応できていません。

(イ) 湘南なぎさ荘

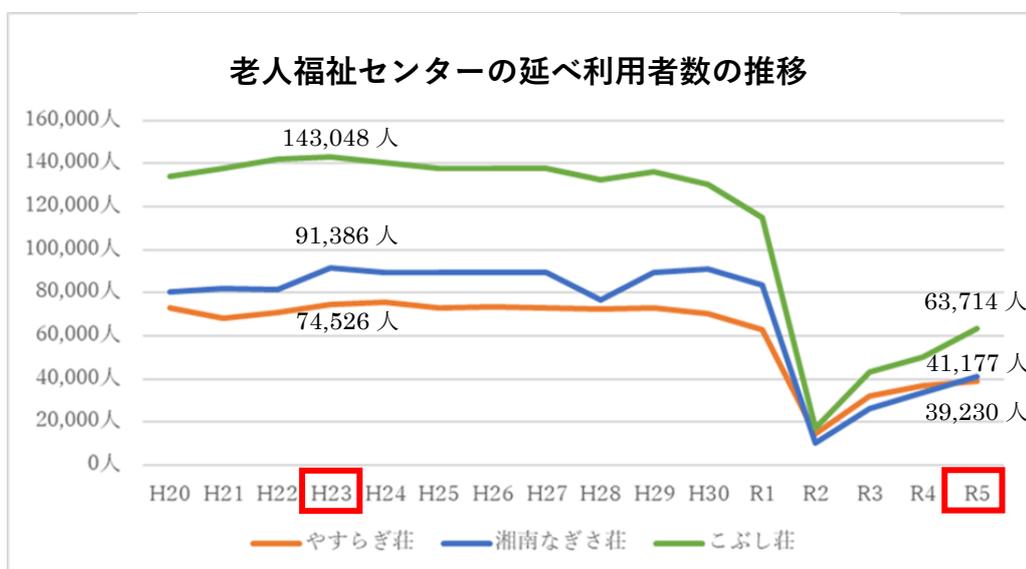
築年数は浅いものの、施設の構造上、主要設備が地下にあるなど、建物の構造が複雑となっているため、電気設備などの更新や大規模な修繕や工事は建物を除却しないと行えない状況となっています。

(ウ) こぶし荘

上記2施設と比較しても場所が広く、築年数も浅く、浴室及び運動浴室を利用できる施設となっています。今後、経年劣化に伴い、施設や設備の修繕の必要が生じる状況はありますが、現時点においては、適切なメンテナンスを行うことで、支障なく運営を継続することが可能です。

イ 利用者数の減少

老人福祉センターの開設以来、高齢者数は増加し、高齢化率も上昇し続けていますが、老人福祉センターの3館合計利用者数は、平成23年度の308,960人がピークで、その後、緩やかな減少傾向となっています。令和5年度の利用者数は144,121人で、平成23年度の46.6%程度となっており、利用者数は回復傾向にはあるものの、コロナ禍前の人数までには戻っていない状況です。



ウ 利用者の固定化

令和5年度の実利用者数は、やすらぎ荘が1,267人、湘南なぎさ荘が1,724人、こぶし荘が2,020人となり、合計5,011人となっています。これにより市内の60歳以上人口（令和6年4月1日現在）の利用率に換算すると、全体の約3.7%にとどまっており、一部の高齢者の利用に偏っている状況となっています。サービスの公共性・公平性の観点から、利用者の固定化が課題となっています。

エ 入浴設備の運用にかかるコスト高

施設の老朽化にともない修繕費が増す中で、特に浴室施設について、今後も安全に維持していくためには、定期的なボイラー交換や修繕などが必要となるため、さらにコスト高が見込まれます。

入浴設備の運用にかかるコスト

（令和5年度）

	やすらぎ荘	湘南なぎさ荘	こぶし荘	合計
光熱水費	5,267,277円	5,261,892円	5,267,277円	15,796,446円
修繕費	2,153,580円	1,645,710円	839,300円	4,638,590円
人件費（委託）	3,161,000円	5,151,150円	4,877,300円	13,189,450円
合計（a）	10,581,857円	12,058,752円	10,983,877円	33,624,486円
延べ利用者数（b）	13,206人	9,121人	16,632人	38,959人
利用1回当たりの料金(a/b)	801円	1,322円	660円	863円

オ 浴室利用者数の減少及び利用者の固定化

浴室の利用者数は、平成26年度がピークで延べ95,854人でしたが、令和5年度には延べ38,959人と半数以下に減少しています。また、実利用者数は、令和6年3月分では3館で612人となっており、この数字を年間の実利用者数とみなした場合に、令和5年度の延べ利用者数38,959人と比較すると、一部の高齢者の利用に偏っている状況にあるといえます。浴室利用についても、サービスの公共性・公平性の観点から、利用者の固定化が課題となっています。

3 「老人福祉センターのあり方に関するアンケート」実施概要（【資料3】参照）

今後の老人福祉センターのあり方について、施設利用者だけでなく、将来的に利用する可能性がある世代や未利用者も調査対象として広く意見を聴取するためにアンケートを実施しました。

アンケートは、全部で8項目、14問で構成され、具体的には、認知度及び利用状況、今後の利用の可能性や必要な機能、老人福祉センターの今後のあり方、高齢者施策全般における必要なサービスについての質問内容となっています。

(1) 調査対象及び方法

- ア 対象者：藤沢市公式LINEの「高齢者」「健康医療」「子育て」セグメント登録者
- イ 対象者数：約24,900人
- ウ 実施方法：藤沢市公式LINEによる配信・回答（e-kanagawa）

(2) 実施時期

2024年（令和6年）7月26日～8月18日

(3) 回答者数

355人（回答率：1.43%）

(4) 考察

アンケート結果から全体及び世代別に分析すると、次のような傾向が伺えます。

ア 全体

- ・現状でのニーズは低いが将来的に必要性が認められる施設であり、時代に即した様々な事業展開を行っていくことが求められています。
- ・センターの利用者ばなれが進んでいくとともに、今後ますます特定の利用者限定された施設となります。
- ・センターに必要な機能として、「講座・イベント」「健康づくり・介護予防」「生きがいくくり、社会参加・交流」の要望が多いことから、このような事業を継続し、さらに充実させていくことが求められています。

イ 世代別

年代を「50歳代以下」及び「60歳以上」の2区分で分析したところ、年代による考えの違いが表れています。

- ・「今後のセンターのあり方としてふさわしいと思うもの」について、60歳以上が、「高齢者が無料もしくは安価で利用できる施設」の回答がもっとも多いのに対し、50歳代以下の方は「多世代が広く利用できる施設」の回答がもっとも多くなっています。
- ・「センターに必要と考える機能・サービス」について、60歳以上が、「講座・イベント」の回答がもっとも多いのに対し、50歳代以下の方は「健康づくり・介護予防」の回答がもっとも多くなっています。
- ・「今後もセンターは必要と考えるか」について、60歳以上の方の約7割が、「必要」と答えているのに対し、50歳代以下で「必要」と答えた割合は約5割となっています。

4 藤沢市高齢者施策検討委員会での意見

本市では高齢者施策を計画的、効果的に推進するため、学識経験者や関係機関、市民等で構成する「藤沢市高齢者施策検討委員会」を設置しています。令

和6年10月2日に開催した本委員会において、今後の老人福祉センターのあり方を議題として取り上げ、ご意見をうかがいました。いただいた主な意見は次のとおりです。

ア 老人福祉センターの現状と課題について

・利用者数の少なさに驚いている。年間3億円ものお金をかけながら、現状の利用者数を考えると、費用対効果の面からも問題であるとする。利用者数を増やす努力、または、別の施策が必要かもしれない。

イ アンケートの実施結果について

・市民センターと老人福祉センターとは重なる箇所があるので、共有できるように計画した方がよいと思う。

ウ 老人福祉センターのあり方及び今後の方向性について

・もし、このアンケート結果を正しいとするなら、必要と考えていても利用する人はかなり少ない（認知度が70%を超えているにも関わらず）。何か別の施策も考える必要があるのでは。

エ その他

・老人福祉センターは縮減していくが、一方でそれに代わる手立てを示さなければならぬ。より身近な施設（場所）＝「地域展開」に移行するなど、新たな方向性が必要ではないかと思う。

5 老人福祉センターのあり方及び今後の方向性

(1) 今後の高齢者施策を見据えた取組

いきいき長寿プラン 2026（藤沢市高齢者保健福祉計画・第9期藤沢市介護保険事業計画・藤沢市認知症施策推進計画）に基づき、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために、地域社会とのつながりを意識した健康づくり、介護予防を推進していくことが重要であることから、「介護予防支援」、「就労支援」、「社会参加支援」の視点をもって取り組んでいきます。

(2) 課題等を踏まえた整備の基本的な考え

前項にあげた課題やアンケート結果などから求められる機能、施設の維持管理や運営にかかるコスト削減の考え方等を踏まえ、今後の老人福祉センターの整備の基本的な考えについて、次のとおり示していくものです。

ア 老人福祉センターにおける再整備方針

本市では、都市化の進展や経済成長に合わせ、公共施設を集中的に整備してきた中で、老人福祉センターについても、高齢者の生きがいと健康づくりの拠点施設として整備してまいりました。しかしながら近年、社会状況の変化などから、より身近な場所で様々なサービスが受けられるよう、福祉サービス全般において地域支援の考え方にシフトしています。このような状況を踏まえ、今後の老人福祉センターの再整備につきましては、これまでの拠点整備の考えから、より身近な地域において、機能別にサービスを受受できる方向に転換してまいります。

イ 地域共生社会の実現をめざした施設整備

今後の老人福祉センターについては、地域共生社会の実現をめざし、藤沢

型地域包括ケアシステムを深化・推進させていく観点から、高齢者だけでなく全世代のあらゆる方に対する支援を視野に入れた施設の活用を進めてまいります。

この具現化として、湘南なぎさ荘と鶴沼市民センター等との複合化による再整備を進めます。

ウ 入浴事業の廃止

入浴事業については、光熱水費、維持管理費や清掃などに係る人件費などのランニングコストが高額となっています。また、利用者が固定化していることからサービスの公平性の観点からも課題となっているため、今後、施設の建て替え等のタイミングをもって入浴事業を廃止します。

(3) 今後の方向性

今後の方向性としては、前項にあげた課題等を踏まえた整備の基本的な考えをもとに、それぞれの老人福祉センターの運営体制について見直しを図ります。

老朽化が著しい、やすらぎ荘については、耐震補強が施されておらず、部分的な修繕では対応が不可能な状況となっているうえ、高齢者施設でありながらバリアフリー化が未対応となっています。このような状況を利用者と共有し、ご意見を伺う中で、今後の方針について引き続き検討してまいります。

湘南なぎさ荘については、前項イのとおり、鶴沼市民センター等との複合化による再整備を進めてまいります。

こぶし荘については、現行の老人福祉センターを維持し、食や健康づくりなど、高齢者の生活支援としての機能を持つ施設として、当面、現状での運営を継続して実施してまいります。

6 今後の予定等

(1) 市議会への報告

ア 令和6年12月市議会定例会

(ア) 厚生環境常任委員会において、「老人福祉センターのあり方及び今後の方向性について」報告

(イ) 総務常任委員会において、「鶴沼市民センター等再整備基本構想の策定について」中間報告

(2) 市民への説明・周知

ア 利用者への説明

(ア) やすらぎ荘利用者への説明会（第1回） 10月24日

やすらぎ荘利用者への説明会（第2回） 11月20日

やすらぎ荘利用者への説明会（第3回） 1月下旬（調整中）

(イ) 湘南なぎさ荘利用者への説明会（第2回） 11月14日

以上

（事務担当 福祉部高齢者支援課）